

趣旨

近年、少雨化や降水量の変動幅の増大によって既に水利用の安定性が低下しているところもあり、地球温暖化の進行により、今後の水資源にさらに深刻な影響を及ぼすことが懸念されている。

昨年、IPCCより公表されたSREX*によると、降水量の減少及び蒸発散量の増加によっていくつかの季節と地域で干ばつが強まることが指摘されており、国内外を問わず、気候変動への適応策を着実に進めていくことが重要である。

このため、将来の渇水規模・頻度を科学的にかつ定量的に把握し、その対応策を含めた適応の方向など、気候変動による水資源への影響について検討を実施する。

SREX:「気候変動への適応推進に向けた極端現象及び災害のリスク管理に関する特別報告書」

検討内容

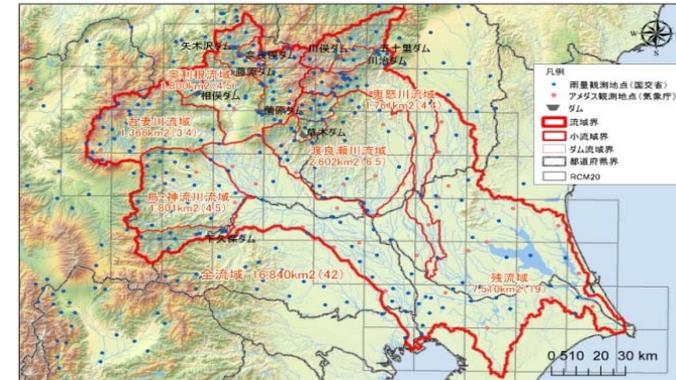
1. 検討流域の渇水発生要因等の分析
 - (1) 検討流域における既往渇水時の降雨特性分析
 - (2) 既往渇水の発生要因・傾向分析
2. 気候変動モデルによる将来の渇水について
 - (1) 検討流域における予測降水量等の設定及び試算
 - (2) 将来の渇水要因の分析と水利用への影響
3. 気候変動による水資源への影響について
 - (1) 渇水影響の程度を分析するための仮定
 - (2) 気候変動による水資源への影響要因の分析

検討体制

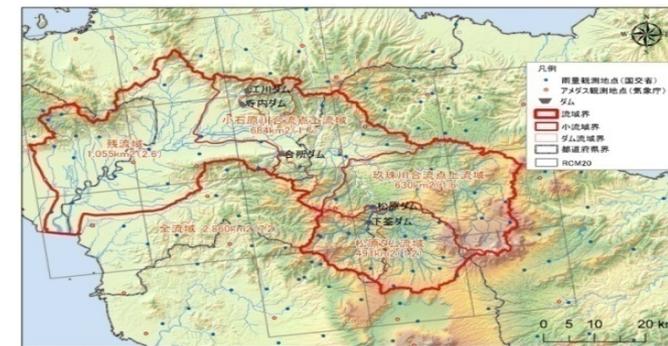
- ◆「気候変動による水資源への影響検討会」委員
- | | |
|---------|---------------------------|
| 沖 大 幹 | 東京大学 生産技術研究所 教授 |
| 滝 沢 智 | 東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 教授 |
| 立 川 康 人 | 京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 准教授 |
| 仲江川 敏之 | 気象研究所 気候研究部 主任研究官 |

検討流域

- 利根川流域 (流域面積: 16,840km²)



- 筑後川流域 (流域面積: 2,860km²)



- 吉野川流域 (流域面積: 3,750km²)

